

ユニバーサルデザインの推進について



所属名：岡山県土木部都市局建築指導課
発表者：山 口 陽

1 背景

岡山県では、「快適生活県おかやま」の実現を基本目標とする「新おかやま夢づくりプラン」に基づき、安全で安心な活力ある地域で、人々の心が通う「いきいき岡山」と、グローバルに発展する「きらめき岡山」の創造に向けて様々な施策に取り組んでいる。

その一環として、すべての人にとってはじめから安全・安心で利用しやすくするというユニバーサルデザイン（UD）の考え方が定着し、まちづくりやものづくり、情報・サービスの提供など、生活のあらゆる面において広く行き渡ったUD社会の実現を目指すこととしている。

このため、県のあらゆる施策にUDの考え方を取り入れるとともに、協働推進拠点の整備や協働のための基盤づくりを行うことにより、誰もが暮らしやすいおかやまづくりを進めている。

2 各施策

2. 1 UDほっとステーションおかやま

NPOとの協働により、県民が気軽に立ち寄り、UD製品の展示や高齢者体験等を通じてUDへの理解を深めるとともに、NPO等の活動と交流の場ともなり、UD普及啓発とUDまちづくりの実践につながる協働推進拠点「UDほっとステーションおかやま」を平成19年7月に開設した。開設場所は図一1の通り、岡山市石関町2-1である。開設時間は図一2の通り、水曜日から金曜日の午前10時から午後7時と、土曜日・日曜日の午前11時から午後6時である。機能としては図一3の通り、「展示コーナー」「体験コーナー」「交流・相談コーナー」に分かれている。平成19年度は、約2,700人の利用があった。



図一1 開設場所



図一2 開設時間

展示コーナー
UD製品の展示、UD関連情報の提供



体験コーナー
高齢者疑似体験セットを使った体験など



交流・相談コーナー
NPOや実践団体に活動や交流の場を提供
NPOや学校関係者からの相談・情報提供など



図—3 UDほっとステーションおかやまのコーナー

2. 2 UDまちづくりの手引き

UDまちづくりを推進するため、岡山県がNPO法人に委託し、倉敷市中心市街地、真庭市勝山地区でのモデル調査に基づいて、平成18年度にUDまちづくりの手引きを開発した。住民参加のワークショップやまち歩き調査を通じて、まちを利用する生活シーンをもとに、市街地の公共的施設、道路、公園等をUDの視点から検証し、継続的な改善(スパイラルアップ)を図るための計画づくりまでの手順を示している。図-4は、UDまちづくりの手引きのうち、まちのUD現状水準の評価方法である。

- 対象地域の主要利用施設(建築物)、移動拠点(駐車場)、トイレ(車いすトイレ、公衆トイレ)、主要移動経路及び坂道・階段について、まち歩き調査の結果を踏まえて「つかいやすさ」「わかりやすさ」「ここちよさ」の視点から評価をします。

■UD化水準項目の設定

対象施設 など UDの視点	主要利用施設 建築物	移動拠点 駐車場	トイレ 車いすトイレ 公衆トイレ	主要移動経路	坂道・階段
つかいやすさ	アクセシビリティ (利用円滑性) 車いすトイレ	アクセシビリティ (利用円滑性) 車いすトイレ	アクセシビリティ (利用円滑性)	移動のしやすさ	手すり すべりにくさ 勾配
わかりやすさ	案内表示	案内表示	案内表示	案内表示	(注意喚起)
ここちよさ	明るさ・清潔感 休憩スペース 人的対応	明るさ・清潔感 休憩スペース 人的対応	明るさ・清潔感 休憩スペース	トイレの配置 休憩スペースの配置 歩車分離	休憩スペース

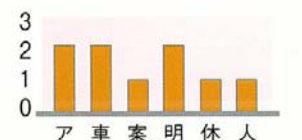
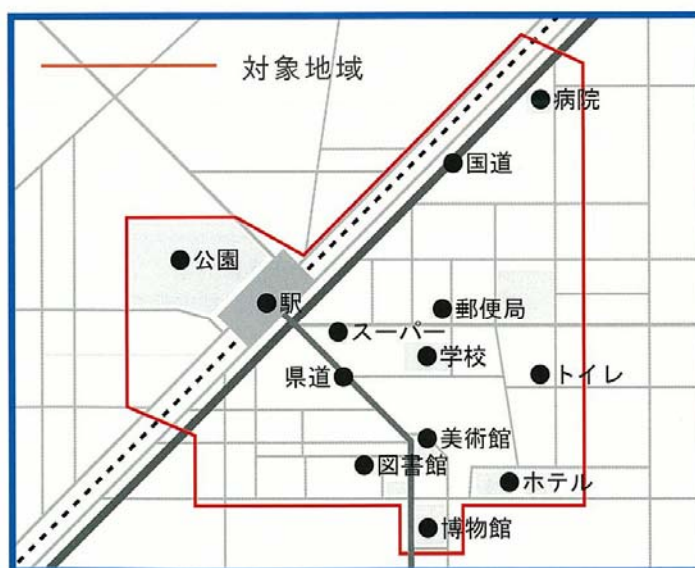


各項目についてレベル評価する

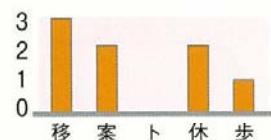
■UD化水準(基準)

レベル3	歩いて楽しむための高次レベル(単独で快適に移動や利用ができる)
レベル2	歩いて楽しむための基礎レベル(単独で移動や利用ができる)
レベル1	歩いて楽しむための低次レベル(助けがあれば移動や利用ができる)
レベル0	レベル1以下

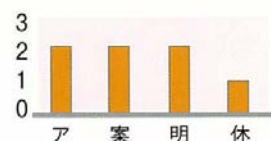
- 評価結果をレベル 3・2・1・0の4段階でグラフ化し、まち全体の地図とあわせて現状のUD化水準を評価します。



【主要利用施設】●郵便局



【主要移動経路】●国道



【トイレ】●車いすトイレ

凡例

- 【主要利用施設】ア=アクセシビリティ 車=車いすトイレ 案=案内表示 明=明るさ・清潔感 休=休憩スペース 人=人的対応
- 【主要移動経路】移=移動のしやすさ 案=案内表示 ト=トイレの配置 休=休憩スペースの配置 歩=歩車分離
- 【トイレ】ア=アクセシビリティ 案=案内表示 明=明るさ・清潔感 休=休憩スペース

図-4 まちのUD現状水準の評価方法

2. 3 UDまちづくり技術研修

公共的施設の維持管理等においてUDに配慮した対応を推進するため、施設管理者・建築設計者・建築施工者等に対し、高齢者疑似体験、障害者疑似体験、障害者との意見交換等を盛り込んだ研修を行っている。平成19年度については、2月にルネスホールで行い、34名の参加があった。疑似体験は、白杖・アイマスク体験、車いす体験、高齢者・妊婦体験に分け、図-5の通り、ルネスホールの屋内外にコースを設定した。疑似体験の様子は、図-6の通りである。疑似体験の後、図-7の通り、4つのグループに別れ、グループワークを行い、気づいた点をあげ、改善策などについて話し合い、発表を行った。

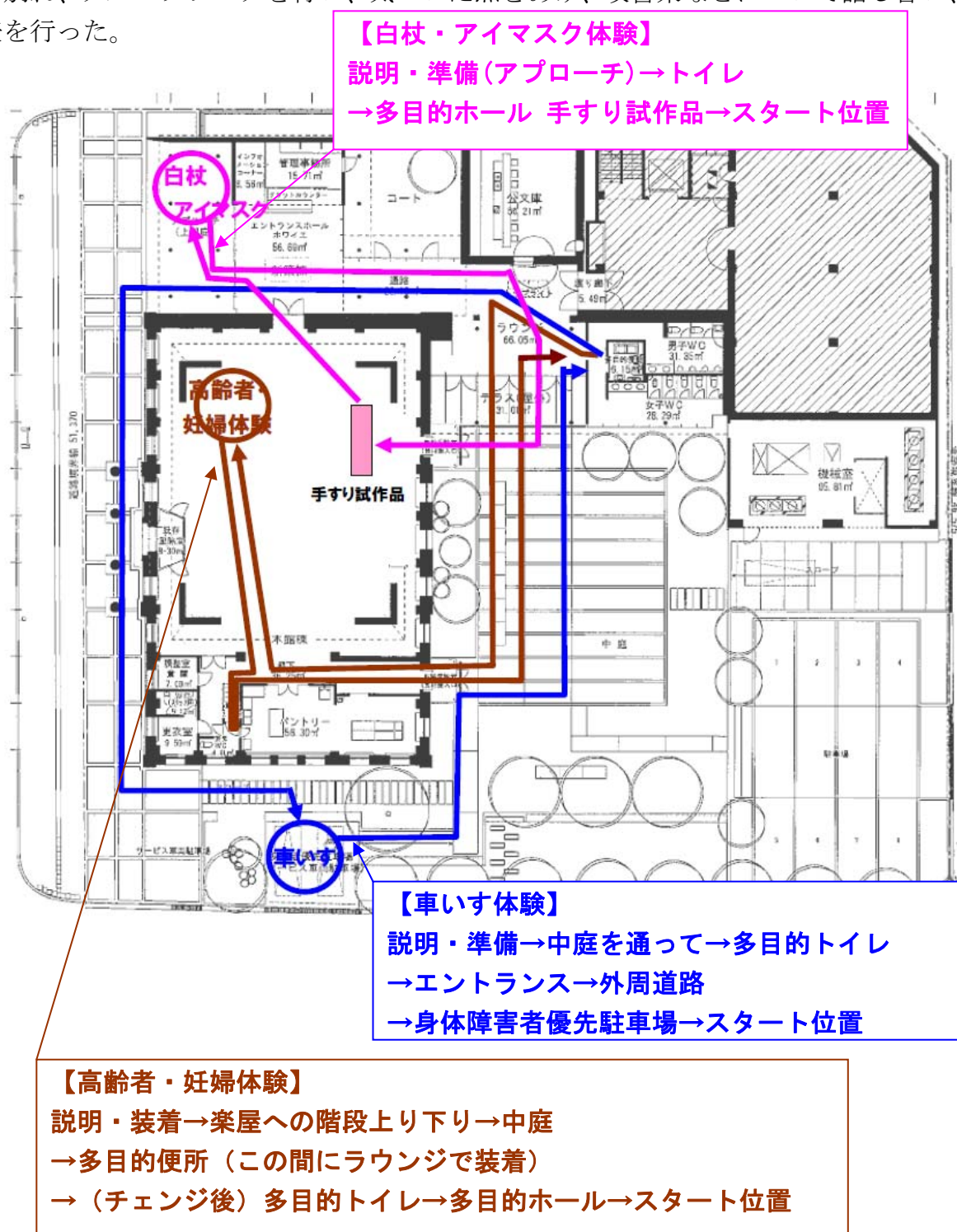
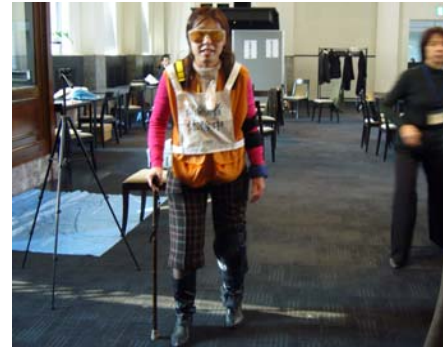


図-5 疑似体験の実施場所



図—6 疑似体験の様子



図—7 グループワークの様子

3 今後の取組み

高齢化社会を迎えた今こそ、バリアフリーの考え方をさらに進め、年齢や性別、能力の如何、国籍などにかかわらず、すべての人に利用しやすい建物や、製品、サービス・情報などを提供していくUDの考え方を導入することが重要である。

UDの考え方を定着させるために、今年度も、UDほっとステーションおかやま等の施策を昨年度に引き続き実施するとともに、今年度新たに、建物の基本的な部分におけるUD化を図った事例を募集し優れた事例を表彰する「わがまちの みんなのたてもの 2008おかやまUDコンテスト」を実施することなどにより、誰もが暮らしやすいおかやまづくりを進める。